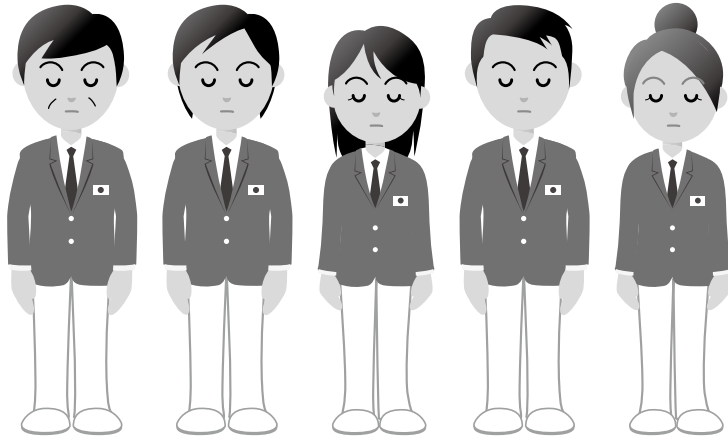


## 2020年東京オリンピック における平和の取り組み

**問** オリンピックの閉会式は、被爆75周年を迎える8月9日に開催される。閉会式での黙禱の実施について、組織委員会に働きかける考えはないか。また、開催期間中に東京で広島市とともに原爆展を開催できないか。



**答** 閉会式での黙禱は、「長崎を最後の被爆地に」という核兵器廃絶に向けた強い思いを全世界に発信できる大変意義のあることであるため、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織

委員会に実施を働きかけたい。

また、原爆展については、これまでも広島市と共同し、主要国首脳会議の機会を捉えて開催し、広く被爆の実相を伝え、核兵器廃絶の世論喚起に努めてきた。東京オリンピックに合わせた東京での開催についても、期間中に世界中から選手、観客をはじめ、報道関係者など多くの人々が集まることから、現在検討している。

### 市役所での障害者雇用の促進

**問** 障害者雇用については、自治体が率先して促進するべきと考えるが、長崎市の取り組みについて伺いたい。

**答** 市役所における障害者の雇用率は、平成30年度2・44%であり、法定の2・5%を達成できていない。

このため、身体障害者を対象にした市職員の採用試験を引き続き実施したほか、非常勤職員の任用に当たっては、身体障害者のみならず、その他の障害者も対象とすることとし、平成31年度は、新たに10名の非常勤職員を任用することとしている。また、障害のある職員へのサポートとして、任用後も所属長との情報共有を行い、必要に応じた対応を行っている。

今後このような取り組みにより、法定雇用率の早期達成と、障害に関係なく、意欲や能力に応じて、誰もが職業を通して社会に参加できる共生社会の

実現につながるよう努めていく。



## 創生自民

### 松が枝国際観光船埠頭の 2バース化

**問** 近年、クルーズ船の大型化と長崎港における需要の増大が進む中、2バース化は必要だと考えるが、これまでの取り組みや見通しについて伺いたい。

**答** 現在、県や市議会、経済団体などと合同で国に要望活動を実施しているが、2バース化に先立ち、国からは、既存施設の有効活用と港内航行の安全ルールの策定が求められている。

そこで、国の直轄事業による同埠頭の岸壁改良工事が実施されたことで15万トン級の船がより安全に停泊できるようになり、さらに、出島岸壁のクルーズ船に特化した受け入れ環境の整備や、20万トン級以上のクルーズ船が停泊可能な小ヶ倉柳地区の岸壁整備などが進められている。

また、港内利用関係者等と協議を重ね、平成29年に港内航行に関する安全対策基準が策定されるなど、2バース事業化に向けての課題解決に一定の見通しがついているものと考えている。



▲松が枝国際観光船埠頭のクルーズ船